



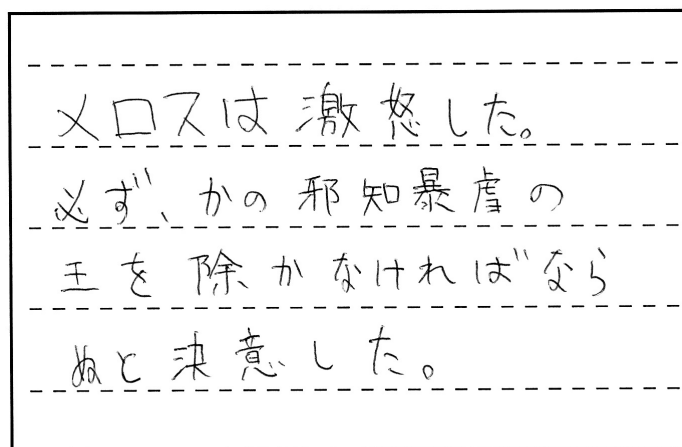
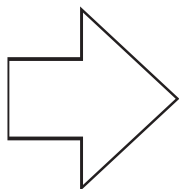
パソコンが普及した今、ペンで字を書くことも減ってきてしまいました。そのせいで、字を上手に書くことにあまりこだわらなくなっているのではないのでしょうか。しかし、記帳する際や履歴書を書く際など、字が上手いに越したことはありません。時間のある大学生のうちに字を練習して、筆美人を目指してみませんか？

BEFORE

今回は、とある編集部員に実際に字を書いてもらいました。

全体的に字が雑で読みにくくなってしまいました。特に、ひらがながあまり得意ではないようです。しかも『虐』の字を間違えています。パソコンに慣れすぎてしまったせいかもしれません。

こんな状態でも、練習すれば上手に字が書けるようになるのでしょうか？ ひらがな・カタカナ・漢字及び文字間の調和について、書き方のコツを習ってみましょう。



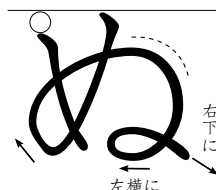
ひらがなの書き方

ひらがなは、漢字の中で最も崩れた書体である草書体を簡略化して発展した文字です。ですから曲線を活かし、直線と曲線の組み合わせをリズムカルに書き切ることが

大切です。また、「い」や「こ」などは点画の繋がりを意識して書きましょう。

また、字形は左右のバランスが大切です。「お」や「ね」など縦画の右側に大きく広がる字形は、縦画を中心の左にずらしてバランスを整えます。

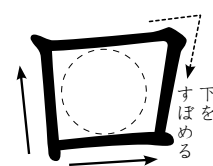
字の結び方には2種類あり、ひらがなの元の形によって異なります。「ほ」「ま」「な」「す」は、角を付けて三角に結びましょう。「は」「よ」「ぬ」は、左横に引くと綺麗な形に結べます。結んだら右下に長く引くと安定します。



カタカナの書き方

カタカナは主に、一点一画を丁寧に書く漢字の「楷書体」の一部から作られており、ひらがなよりも直線的です。ですからカタカナを練習することで、漢字のウォーミングアップに繋がります。点画の書き終わりが、とめ・はね・はらいの3種類にはっきりと区別されているため、これらを意識して書きましょう。

またカタカナでは、縦画と横画の違いがはっきりと出ます。縦画は書き出しを強くし、同じ力で下までゆっくり引きまします。「イ」や「ノ」などの左はらいも、縦画と同じように書き出しを強め、だんだん力を抜いて先を細くします。一方横画は、始筆は軽く徐々に力を入れていきます。そのため、書き終わりの方が強く太くなります。



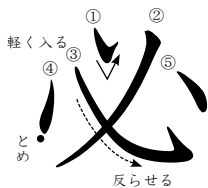


漢字の書き方

漢字は様々な点や線でできていて、1つ1つの点画をしっかり書くことが上達のポイントとなります。まず縦画は、速度をつけて一気に書き切ることが大切です。この際、線が左右に傾かないよう注意してください。横画は、書き始めを軽く溜めて、右上がりに書きます。

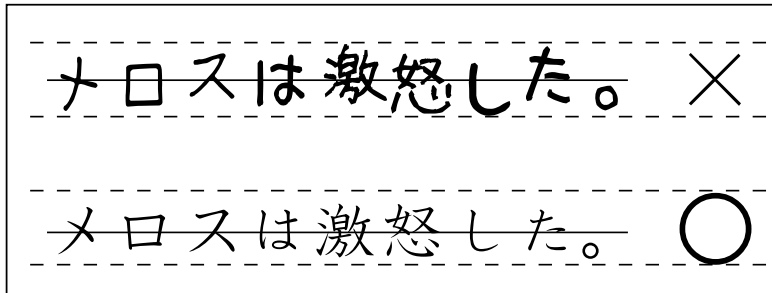
「人」「足」などで大切なのがはらいです。左はらいはカタカナと同様ずっと書き、右はらいははらう前にいったんとめます。点やはねはつつい軽視してしまいがちですが、角度を定めて丁寧に書きましょう。へんとつくりに分かれている漢字では、へんは右側を揃えて、つくりはのびのびと書くことが大切です。

また、漢字を書く際に大切なのは書き順です。書き順を守って書くと綺麗に書くことができます。



文字間の調和

文字間の調和を取るためには、漢字をひらがなより少し大きめに書きます。漢字同士では、画数の多い漢字を少し大きめに書きましょう。さらに、左右のはらいが含まれる文字は大きめに、外形が□の文字は小さめに書くと、よりバランスが良くなります。



横書きの際は、文字の重心を意識して揃える読みやすくなります。また、横画の仕上がり方向をやや右上がりに揃えると、全体が綺麗に見えます。

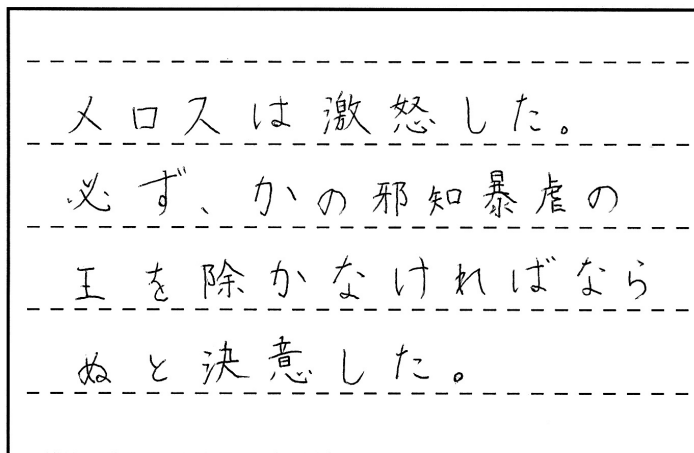
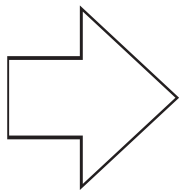
左の図では、上の文は漢字とひらがなの大きさがあまり変わらず、字の重心が揃っていないためバランスが悪く見えます。下の文は、漢字とひらがなの大きさのバランスがよく重心が揃っているため、非常に読みやすくなっています。

AFTER

練習を積んだ編集部に、再び例文を書いてもらいました。

BEFOREに比べて、かなり上達しました。1つ1つの点画にきちんと注意払っていることがわかります。字の癖はまだ残っていますが、上記の点に気をつけ、丁寧に時間をかけて書くだけでも格段に上手くなりました。今後も注意し続ければ、日ごろから読みやすい字が書けるようになるでしょう。

みなさんも、ぜひ筆美人を目指してみてください。



はみだし
すてーじ

懸賞にはまっています。
⇒当雑誌のクロスワードは非常に当選確率の高い懸賞でございます。

(工・3 貧乏人)
(ぜひどうぞ; 編)